



エンジニアリング
「社会の“かなえたい”を共創する」
Enriching Society through Engineering Value

株主通信

2024年度 中間報告書

2024年4月1日～2024年9月30日

千代田化工建設株式会社
証券コード6366



株主の皆様へ



代表取締役社長
太田 光治

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、2024年度（中間期）の株主通信をお届けするにあたり、ご挨拶を申し上げます。

当社は、昨年度までの中期経営計画「再生計画～再生と未来に向けたビジョン～」の5年間で、リソースに見合った受注戦略、リスクマネジメントやプロジェクト遂行力の強化、人財の育成・高度化等を推進することで、事業基盤の強化を図ってきました。これら再生の取り組みは一定の成果をあげたと考えています。一方で、引き続き達成すべき課題として「事業ポートフォリオの多様化」と「財務的自立」が残っています。国内外の事業環境が大きく変化する中、この変化を持続的成長に向けた新たな事業機会と捉えて、多様な分野でバランス良く稼ぐ体質に変革していくこと、また、それによって経営の安定化と財務体力の復活を果たし、将来の成長に向けた確固たる基盤を確立することが経営トップとしての使命と認識しています。私自身、全社員の先頭に立って取り組んでいきます。

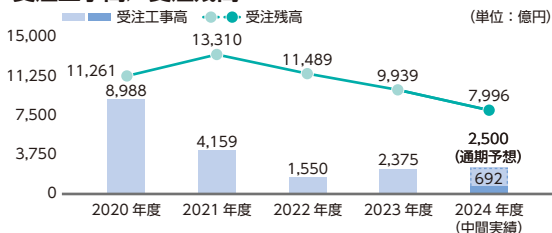
経営安定化に向けて

2023年度決算では、米国ゴールデンパスLNGプロジェクトのジョイントベンチャーパートナーの法的再建手続きに伴い、プロジェクト遂行に必要なコストについて引当計上などの会計処理を行った結果、大幅な損失を計上しました。その結果を踏まえ、経営の安定と成長のために、取り組むべき分野・案件を厳選し、取り組み方の改善も含め、リスクマネジメントをより強化することが重要と考えています。

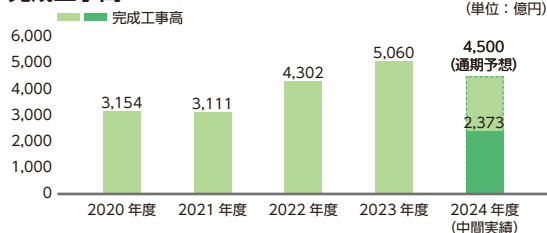
当社はこれまで海外大型EPC（設計・調達・建設）案件の受注・遂行

財務ハイライト

受注工事高／受注残高



完成工事高



を中心とした経営をしてきました。海外大型EPC案件では、受注から完工までの期間が数年に亘るため、その間の環境変化を確実に見通すことは難しく、収益性のボラティリティが高い経営体質となっています。この偏りを解消し経営を安定させるためには、中小型案件や国内案件も含めてバランスの良い事業ポートフォリオを構築していく必要があります。また、海外大型EPC案件については、案件の大型化・長期化・複雑化が進み、コスト変動リスクがますます大きくなり、顧客との間でリスク・リターンのバランスのあり方や契約形態を見直していくことがこれまで以上に重要となります。簡単ではありませんが、顧客から理解を得られるように粘り強く働きかけていきたいと考えます。なお、経営の安定化、さらには新たに挑戦していく当社グループの「ありたい姿」については、中期経営計画を練り直し、2025年度期初に発表する予定です。

ゴールドパスLNG プロジェクトの進捗

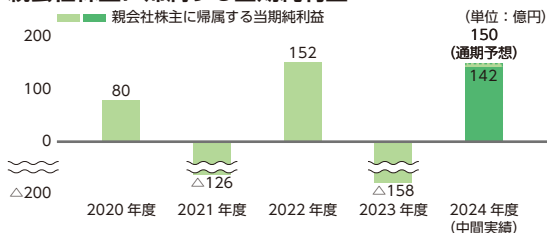
ゴールドパスLNGプロジェクトのジョイントベンチャーパートナーである米国Zachry社が本年8月に現地裁判所の承認により、正式に同プロジェクトから離脱しました。中断していた工事は既に再開され、工事業務の大宗を担っていたZachry社のスコープをもう一方のジョイントベンチャーパートナーであるCB&I社が引き継いで遂行しています。Zachry社離脱後の新たな契約については、現在も顧客と交渉中であり、本年度内の締結を目指しています。契約の締結後、契約内容を踏まえた採算の見直しを実施し、段階的に決算に反映していきます。

2024年度業績の見通し

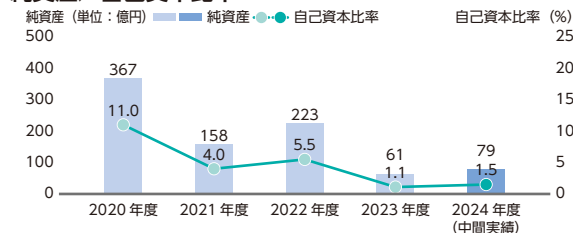
2024年度（中間期）は、ゴールドパスLNGプロジェクトを除く、手持ち案件の進捗が良好だったことや、タンクーLNGプロジェクトの追加収益等が寄与し、前年同期比で増益となりました。通期の業績見通しについては、利益進捗度は高いものの、上期はタンクーLNGプロジェクトなど一過性の押上げ要因があったことや、ゴールドパスLNGプロジェクトの新たな体制下での契約が未締結であることを踏まえ、据え置きました。受注面では、国内の脱炭素案件を中心に引き合いが旺盛であり、本年度末までの受注計上を見込んでいます。

今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

親会社株主に帰属する当期純利益



純資産／自己資本比率

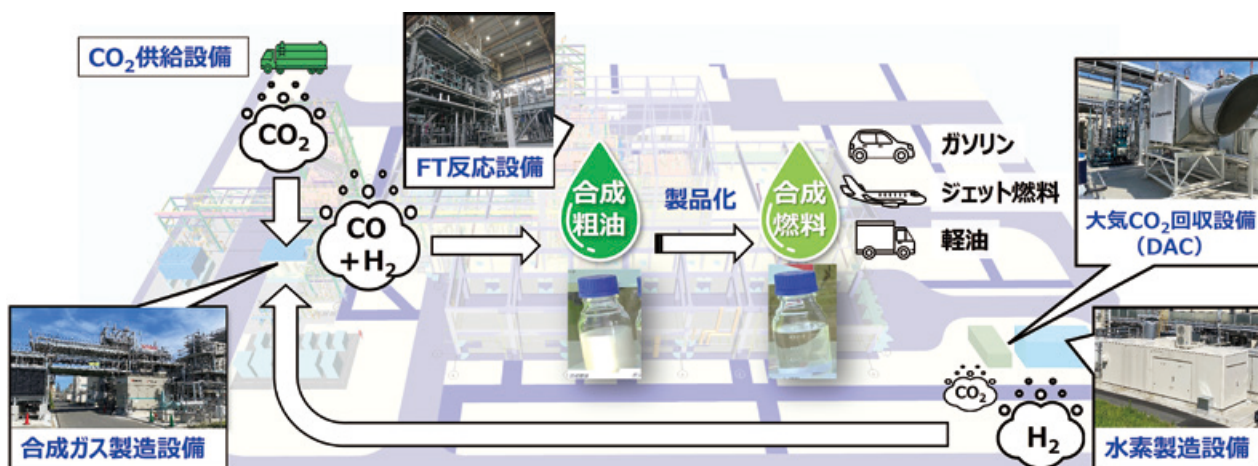


(本項目に記載の金額は、表示単位未満を四捨五入して表示しています。)

トピックス

■ 日本初！原料から一貫製造可能な合成燃料製造実証プラントを建設

当社は、ENEOS(株)向け1BD(1 Barrel per Day)*合成燃料製造実証プラント建設工事を2024年6月に完工しました。本件は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のグリーンイノベーション基金事業／CO₂等を用いた燃料製造技術開発プロジェクトに採択された事業で、水素とCO₂を原料とした合成燃料の製造プロセスの早期技術確立とコスト低減の要素技術評価が期待されています。



* 1Barrel は約159リットルです。

(ENEOS株式会社提供画像)

■ 三菱重工業(株)とCO₂回収技術ライセンス供与に関する協業契約を締結

当社は、三菱重工業(株)と、CO₂回収技術のライセンス供与に関する協業契約を締結しました。この技術は、三菱重工業(株)が関西電力(株)と共同開発した技術で、ライセンス供与の対象は国内向けCO₂回収プロジェクトとなります。これに伴い、需要拡大が見込まれる国内CCUS*市場への取り組みを強化し、幅広い産業分野における脱炭素化ニーズへの貢献を図ってまいります。

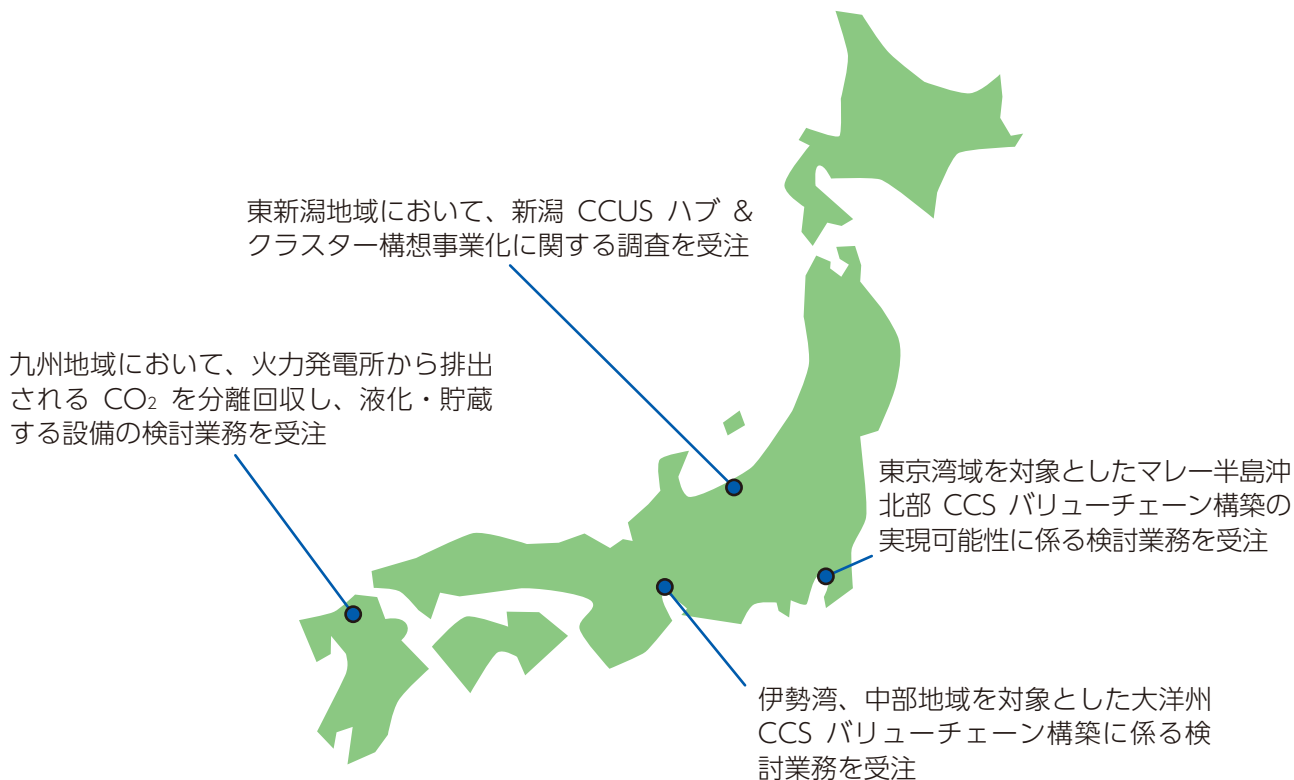
* CCUS : Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage。

■ CCSバリューチェーン構築

複数産業から排出されるCO₂を対象としたCCS*バリューチェーン構築に向けた検討業務等に取り組んでいます。当社は、特に天然ガスの液化プラント建設で培ったガスの低温液化技術やスケールアップを強みとしており、様々な検討業務においてもその知見を活かしてまいります。

*CCS: Carbon dioxide Capture and Storage。

当社の最新取り組みについて、詳しくは、当社HP「プレスリリース」をご覧ください。



注：提示のエリアはイメージであり正確な位置をあらわすものではありません。

人びとの健康に貢献

■ iPS細胞提供プラットフォームの実証実験に参画

当社は、2024年7月に一般社団法人アイディーフォーのiPS細胞提供プラットフォームの実証実験（第二期）に参画しました。第一期の実証実験では、一つの疾患におけるiPS細胞の製造から製薬会社への提供までの一連のプロセスを完遂し、事業の実現可能性を確認しました。第二期の実証実験では、当社が培ってきた細胞に関する経験や知見をiPS細胞のデータベース構築や流通経路の最適化に反映させることで、本プラットフォームの事業化に貢献します。

■ 筑波大学内に新たな細胞調製施設を建設完了、運用開始

当社は、共同研究に取り組んできた国立大学法人筑波大学及び筑波大学附属病院と、最先端の再生医療の実用化を推進するため、新たな細胞調製施設を2024年9月末に建設完了し、10月より運用開始しました。これにより、基礎研究から製造開発支援において、アカデミア・医療機関・企業が近い距離で再生医療等製品に関する製造工程の条件構築及び細胞の特性評価に関するサービスの拡大を進めていきます。



細胞調製室

■ 国内初！植物による有用タンパク質の大量生産—植物バイオファウンドリの整備

当社の子安オフィス・リサーチパーク内で、植物を用いて有用タンパク質を生産する、新規基盤技術の実証設備の建設をNEDOの採択事業として進めています。本技術は、ワクチン、再生医療等製品、化粧品、機能性食品など多様な製品を動物性の素材を使わずに、安価に生産できる技術です。また、実証設備は様々な企業の植物バイオものづくりの実用化開発に利用できるよう整備し、国内初の「植物バイオファウンドリ」として機能させる予定です。本事業を通じて、植物を用いた物質生産の試験受託・プロセス開発、ラボスケールやパイロットスケールからのスケールアップ検討等のサービス提供を計画しています。

カーボンニュートラル

■ 世界初！CO₂を原料とするポリエステル繊維製造及びサプライチェーンの構築



CO₂由来の原料が
使用された日本代表の
試合用ユニフォーム

2020年、当社はNEDOからの委託を受け、CO₂を原料とするパラキシレン製造に関する世界最先端の技術開発を開始し、パートナーとの共創により、2023年に当該技術開発に成功しました。2024年には(株)ゴールドウインをプロジェクトオーナーとし、CCU技術を活用したポリエステル製造サプライチェーンの構築を5か国7企業共同で実現しました。この技術を活用して作られたCO₂由来のポリエステル原料はスポーツライミングの日本代表のユニフォームの一部に採用されるなど、素材分野における脱炭素を積極的に推進し、脱炭素社会の早期実現に貢献しています。

■ SPERA水素TM技術を活用した輸入水素利活用プロジェクト実証開始

当社は、シンガポール PSA Singapore 社が運営する世界最大規模の港湾内のコンテナヤードである Pasir Panjang Terminal に当社が提供した小型脱水素装置を設置し、シンガポール国外からの輸入水素を用いた大型燃料電池車への水素充填実証運転を開始しました。

本取り組みは、シンガポールでの水素燃料の利用拡大に重要な役割を果たすものであり、今後もパートナーと共同で、シンガポール国内における水素利用の加速とともに、世界の低炭素社会の実現、持続可能な未来に向けた脱炭素社会の実現に貢献していきます。



当社が提供した脱水素装置

■ インドネシア銅製錬プラント建設プロジェクト～銅の安定供給への貢献

当社グループが、2021年からインドネシア 東ジャワ州においてEPC業務を遂行してきた、単一製造ラインとして世界最大級の生産能力を有する銅製錬プラントにおいて、2024年9月、生産開始式典が開催されました。当社グループではこれまで、インドネシアにおいて石油石化・LNG及びガス処理等のエネルギー関連プロジェクトに加え、多岐にわたる分野のプロジェクトに従事してきました。本プロジェクトを通じて、脱炭素社会に必要な銅資源の供給拡大に貢献するとともに、インドネシアの経済発展にも貢献していきます。



プラント全景

(写真提供: Courtesy of P.T. Freeport Indonesia)

会社の概要 (2024年10月1日現在)

商号／千代田化工建設株式会社
(Chiyoda Corporation)

設立／1948年1月20日
資本金／150億14百万円

取締役

取締役会長	榎田 雅和
代表取締役社長 CEO 兼 CSO	太田 光治
取締役副社長 執行役員 CWO	清水 啓之
代表取締役専務執行役員 CFO 兼 CCO	出口 篤
代表取締役専務執行役員	小林 直樹
取締役	久我 卓也
社外取締役	松川 良
社外取締役	救仁郷 豊
社外取締役	黒木 彰子
取締役(常勤監査等委員)	渡部 修平
社外取締役(監査等委員)	伊藤 尚志
社外取締役(監査等委員)	松尾 祐美子

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月開催
定時株主総会基準日	3月31日

公告の方法

電子公告により行う
公告掲載URL
<https://www.chiyodacorp.com/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。

一単元の株式の数

100株

上場証券取引所

東京証券取引所 スタンダード市場

証券コード

6366

株主名簿管理人 特別口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (通話料無料)



千代田化工建設株式会社

〒220-8765

横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号

みなとみらいブランドセントラルタワー

電話：045-225-7777 (代表)

<https://www.chiyodacorp.com/>



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



ミックス
紙 | 責任ある森林
管理を支えています
FSC® C013080





当社の取り組みについて詳しくは「CHIYODA REPORT 2024」をご覧ください。



■株式に関するお問い合わせ先

- 住所変更、配当金の振込指定、単元未満株式の買取請求等の各種手続きについて
 - 証券会社等の口座に記録された株式
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
 - 特別口座に記録された株式
三菱UFJ信託銀行株式会社 (特別口座管理機関) にお問い合わせください。
- 未受領の配当金について
三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

[三菱UFJ信託銀行株式会社のお問い合わせ先]

〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-232-711 (通話料無料)